



2026年3月期第1四半期 決算説明資料

2025.07.30

TIS株式会社

© 2025 TIS Inc.

- TISの河村でございます。よろしくお願いいたします。
- それでは、本日15:30に発表しました、2026年3月期第1四半期の決算の内容について、ご説明します。

2026年3月期第1四半期 業績概要

- ・前年同期比増収増益。
- ・売上高総利益率の向上が牽引し、営業利益率は11%台に。
- ・受注高、受注残高は「ソフトウェア開発」が牽引し、堅調に積みあがる。

TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について

- ・更なる企業価値の向上を目指しTISとインテックが合併。
- ・「TISI株式会社」に商号変更。
- ・さらなるガバナンス高度化に向けて、監査等委員会設置会社へ移行。

(注)商号変更及び監査等委員会設置会社への移行は、そのために必要となる定款変更議案が2026年6月下旬開催予定の定時株主総会で承認されることが条件となります。

- ・はじめに、2ページをご覧ください。
- ・今回の決算のハイライトです。
- ・まず、2026年3月期第1四半期の業績については良好な事業環境が継続し、前年同期比増収増益となりました。
- ・営業利益率については、売上高総利益率の向上が牽引し、11%台に引き上がりました。
- ・また、受注高・受注残高についても「ソフトウェア開発」が牽引し、堅調に積み上がりました。
- ・次に、「TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について」です。
- ・本日の適時開示のとおり、TISとインテックが合併し、これまで以上に強固な経営・事業基盤を構築することで、更なる企業価値の向上を目指していくこととなりました。
- ・商号については「TISI株式会社」への変更を予定しています。
- ・また、これを機に監査等委員会設置会社への移行も予定しています。

- 1 2026年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績見通し
- 3 TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について
- 4 参考資料

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ(TISおよびグループ会社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・各四半期会計期間(3カ月)の数値は累計期間の差引により算出しています。

・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。(P.20除く)

(説明省略)



- 1 2026年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績見通し
- 3 TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について
- 4 参考資料

(説明省略)

2026年3月期第1四半期 業績ハイライト(前年同期比)

- 顧客のデジタル変革をはじめとするIT投資需要への的確な対応やサービス提供の推進による事業拡大等が牽引し、増収増益。

(百万円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	134,055	140,316	+6,261	(+4.7%)
営業利益	14,061	16,353	+2,291	(+16.3%)
営業利益率	10.5%	11.7%	+1.2P	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,679	12,520	+1,841	(+17.2%)
四半期純利益率	8.0%	8.9%	+0.9P	—

・営業外収益: 1,015百万円(前年同期比 ▲201百万円)
→受取配当金 672百万円 等

・営業外費用: 304百万円(前年同期比 +97百万円)

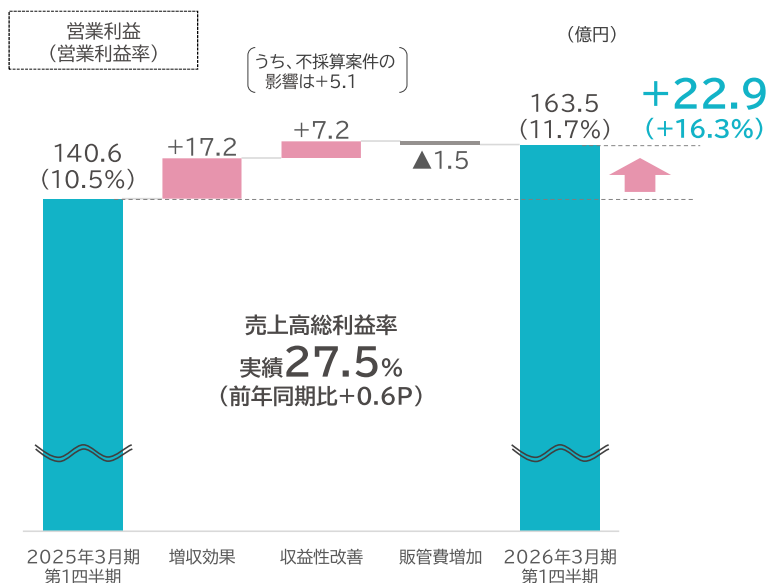
・特別利益: 2,054百万円(前年同期比 +67百万円)
→投資有価証券売却益 1,354百万円 等

・特別損失: 56百万円(前年同期比 ▲659百万円)

- それでは、5ページをご覧ください。2026年3月期第1四半期の業績概要です。
- 引き続き良好な事業環境を背景に事業拡大を進め、増収増益を実現することができました。
- 売上高は前年同期比4.7%増の1,403億円。
- 営業利益は前年同期比16.3%増の163億円となり、営業利益率は1.2ポイント向上し、11.7%となりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は営業利益の増加を背景として前年同期比17.2%増の125億円となりました。

2026年3月期第1四半期 営業利益要因別増減分析(前年同期比)

- 高付加価値ビジネスの推進や生産性向上等により営業増益を達成。売上高総利益率は27.5%に向上。



<販管費増減>

	前年同期比
連結子会社異動影響等	▲0.3
成長投資	▲0.6
施策推進	+4.0
その他経費	▲1.4
計	+1.5

<成長投資>

(人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資)

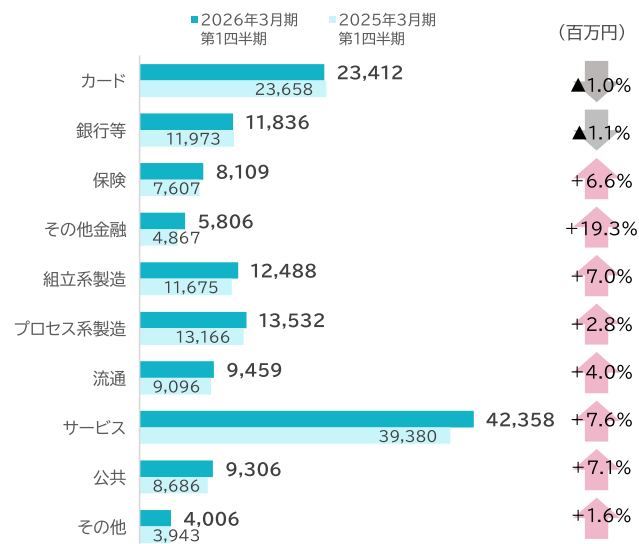
	前年同期比
売上原価	+1.9
販管費	▲0.6
計	+1.2

- 6ページは営業利益の要因別増減です。
- 増収に伴う増益が牽引する形で、前年同期比22.9億円の営業増益で着地しました。
- また、売上高総利益率は、前年同期比0.6ポイント上昇し、27.5%となりました。
- なお、当第1四半期の不採算案件は1億円と、しっかり抑制することができました。
- 引き続き、グループ全体で、品質向上施策の強化・浸透に取り組み、不採算案件の未然防止に努めてまいります。

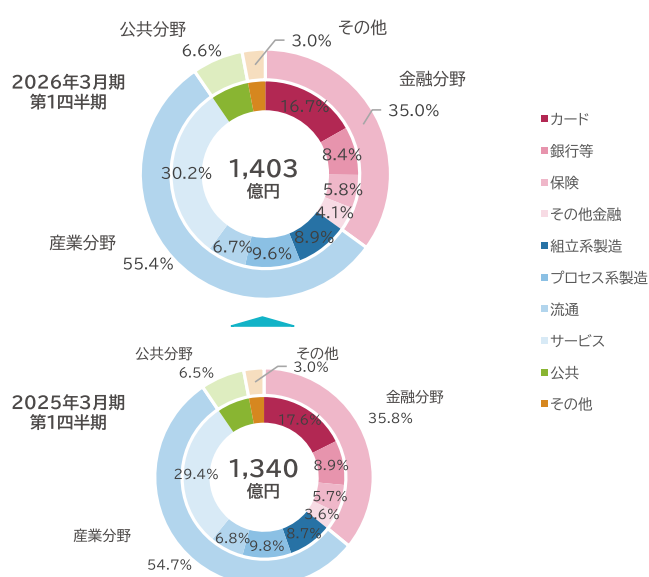
2026年3月期第1四半期 顧客業種別売上高

- カード、銀行等は微減も全体的には好調なトレンドは継続。サービス、その他金融、組立系製造が牽引。

業種別売上高



業種別売上高構成比



© 2025 TIS Inc.

- 7ページをご覧ください。顧客業種別売上高の状況です。
- 「カード」「銀行」はわずかに減少していますが、これを除けば全体的に好調なトレンドが継続しました。
- 中でも「サービス」「その他金融」「組立系製造」が全体を牽引しました。

2026年3月期第1四半期 主要セグメント別損益状況(前年同期比)

(百万円)		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比		概況
オファリング サービス	売上高	34,001	36,246	+2,244	(+6.6%)	エンタープライズ系、決済分野でのIT投資拡大の一方、税理士事務所向けシステム等の更新サイクルに伴う需要が一巡したことや、決済分野における先行投資増により増収減益。
	営業利益	2,206	1,730	▲476	(▲21.6%)	
	営業利益率	6.5%	4.8%	▲1.7P	—	
BPM	売上高	10,008	10,686	+678	(+6.8%)	DX事業を始めとする案件獲得や継続的なコストコントロールにより増収増益。
	営業利益	836	1,423	+586	(+70.1%)	
	営業利益率	8.4%	13.3%	+4.9P	—	
金融IT	売上高	24,974	23,631	▲1,343	(▲5.4%)	モダナイゼーション関連で新規顧客獲得の貢献があった一方で、前期からの大型開発案件のピークアウト影響に加えて、一部顧客の運用業務の終了等もあり減収減益。
	営業利益	3,075	2,979	▲95	(▲3.1%)	
	営業利益率	12.3%	12.6%	+0.3P	—	
産業IT	売上高	29,840	32,349	+2,508	(+8.4%)	サービス・製造・流通等の幅広い業種におけるIT投資拡大に伴い増収増益。
	営業利益	4,359	5,107	+748	(+17.2%)	
	営業利益率	14.6%	15.8%	+1.2P	—	
広域IT ソリューション	売上高	41,060	43,800	+2,739	(+6.7%)	自治体関連や医療系およびその他産業系顧客の幅広いIT投資需要の拡大に加え、不採算案件の抑制等により増収増益。
	営業利益	3,355	4,837	+1,482	(+44.2%)	
	営業利益率	8.2%	11.0%	+2.8P	—	

© 2025 TIS Inc.

- ・ 8ページは、主要なセグメント別の状況です。
- ・ 「オファリングサービス」は、エンタープライズ系、決済分野でのIT投資需要をしっかりと取り込めた一方で、主に税理士事務所向けシステム等の更新サイクルに伴う需要が一巡したことや、決済分野における先行投資を強めたことで増収減益となりました。
- ・ 「BPM」は、DX事業を始めとする案件が獲得できたことや、継続的に実施しているコストコントロールが奏功して、増収増益となりました。
- ・ 「金融IT」は、モダナイゼーション関連で新規顧客獲得の貢献があった一方で、前期から継続する大型案件のピークアウト影響に加えて、一部顧客の運用業務の終了等もあり、減収減益となりました。
- ・ 「産業IT」は、サービス・製造・流通等の幅広い業種でのIT投資拡大により増収増益となりました。
- ・ 「広域ITソリューション」は、自治体関連や医療系、その他産業系顧客の幅広いIT投資需要の拡大に加え、不採算案件の抑制等により、増収増益となりました。

2026年3月期第1四半期 受注状況(当期受注高)

- 金融IT、広域ITを中心にソフトウェア開発が牽引し、前年同期比増加。
- 産業ITでの開発の減少は前期に獲得した複数の開発案件の反動が主因。

(百万円)		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
当期受注高		91,391	100,352	+8,961	(+9.8%)
うちソフトウェア開発		62,124	70,123	+7,998	(+12.9%)
主要セグメント別					
オフリング サービス	当期受注高	18,117	19,142	+1,024	(+5.7%)
	うちソフトウェア開発	12,228	13,807	+1,578	(+12.9%)
BPM	当期受注高	9,204	9,897	+693	(+7.5%)
	うちソフトウェア開発	2,677	3,152	+475	(+17.7%)
金融IT	当期受注高	10,933	13,135	+2,202	(+20.1%)
	うちソフトウェア開発	8,581	12,208	+3,627	(+42.3%)
産業IT	当期受注高	24,274	24,298	+23	(+0.1%)
	うちソフトウェア開発	20,699	19,624	▲1,074	(▲5.2%)
広域IT ソリューション	当期受注高	28,862	33,878	+5,016	(+17.4%)
	うちソフトウェア開発	17,937	21,330	+3,392	(+18.9%)

- 9ページからは受注状況についてのご説明です。
- まず、受注高全体としては「金融IT」「広域IT」を中心にソフトウェア開発が牽引し、前年同期比9.8%増の1,003億円となりました。
- 「産業IT」の開発が減少しておりますが、前期に獲得したERP関連やモダナイゼーション関連等の複数の開発案件の反動の影響です。しかしながらこれらの投資テーマは継続して需要がある領域であることや、現時点では一部で懸念される関税等の影響による需要の冷え込みも特段見られていないことから、ご心配いたく状況ではないと考えております。

2026年3月期第1四半期 受注状況(期末受注残高)

- 金融ITにおいて一部顧客の運用業務終了に伴う減少等があるものの、全体としてはソフトウェア開発を中心に堅調に積み上がる。

(百万円)		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
期末受注残高		146,042	157,304	+11,262	(+7.7%)
うちソフトウェア開発		96,687	104,856	+8,169	(+8.4%)
主要セグメント別					
オフアリング サービス	期末受注残高	29,510	34,507	+4,997	(+16.9%)
	うちソフトウェア開発	16,663	18,526	+1,862	(+11.2%)
BPM	期末受注残高	7,224	7,519	+294	(+4.1%)
	うちソフトウェア開発	6,982	7,302	+319	(+4.6%)
金融IT	期末受注残高	32,252	30,659	▲1,592	(▲4.9%)
	うちソフトウェア開発	20,900	20,728	▲171	(▲0.8%)
産業IT	期末受注残高	31,541	35,114	+3,572	(+11.3%)
	うちソフトウェア開発	23,940	26,732	+2,791	(+11.7%)
広域IT ソリューション	期末受注残高	45,512	49,503	+3,990	(+8.8%)
	うちソフトウェア開発	28,200	31,566	+3,366	(+11.9%)

- 10ページは期末受注残高の状況です。
- 受注残高全体についてもソフトウェア開発が牽引し、前年同期比7.7%増の1,573億円となりました。
- 「金融IT」における一部顧客の運用業務終了に伴う減少があるものの、そのほかのセグメントで力強く積み上がりました。



- 1 2025年3月期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績見通し
- 3 TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について
- 4 参考資料

- 続きまして、2026年3月期の通期業績見通しについてご説明します。

2026年3月期 業績予想ハイライト ※変更なし

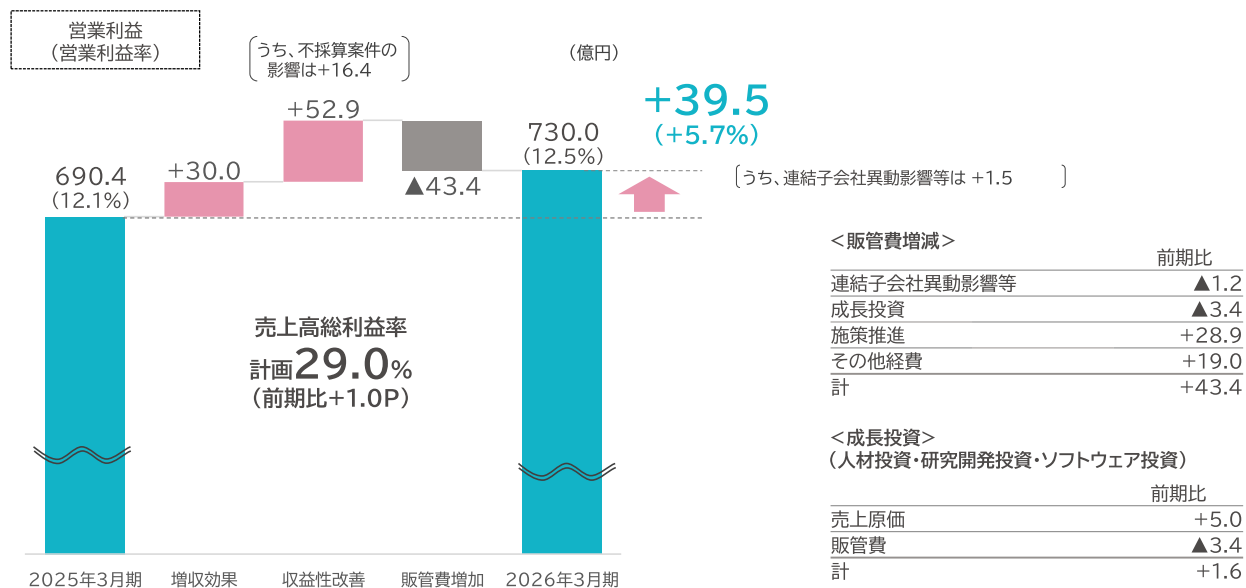
- 事業拡大と生産性向上施策の推進により増収営業増益の計画。
- 当期純利益の減少は、主に特別損益(純額)の縮小によるもの。

(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	前期比	
売上高	571,687	582,000	+10,312	(+1.8%)
営業利益	69,047	73,000	+3,952	(+5.7%)
営業利益率	12.1%	12.5%	+0.4P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	50,012	49,000	▲1,012	(▲2.0%)
当期純利益率	8.7%	8.4%	▲0.3P	—
1株当たり当期純利益(円)	215.00	216.86	+1.86	(+0.9%)
ROE	15.3%	14.5%	▲0.8P	—

- 12ページは2026年3月期の通期業績見通しです。
- 第1四半期の業績は好調なスタートと言える内容でした。
- 通期計画に対しての進捗は概ね想定通りのため、現時点では2026年3月期の通期業績予想については変更ありません。
- 売上高は前期比1.8%増の5,820億円、営業利益は前期比5.7%増の730億円の増収増益の計画です。
- 引き続き、案件獲得・受注積み上げ等を推進することで、期初計画の達成をより確かなものにしてまいります。

2026年3月期 営業利益要因別増減分析(予想) ※変更なし

- 人材投資を含めた継続的な成長投資の中でも、高付加価値ビジネスの提供や生産性向上施策の推進等により、営業増益を見込む。



© 2025 TIS Inc.

(説明省略)

2026年3月期 主要セグメント別損益状況(予想) ※変更なし

(百万円)		2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	前期比		概況
オファリング サービス	売上高	145,515	150,000	+4,484	(+3.1%)	決済、エンタープライズ、基盤系を中心とした需要を取り込み増収増益。海外事業は構造転換等により収益性向上を図る。
	営業利益	9,937	10,600	+662	(+6.7%)	
	営業利益率	6.8%	7.1%	+0.3P	—	
BPM	売上高	42,646	44,000	+1,353	(+3.2%)	注力領域と位置付けるDX事業及びBPM事業の伸長等により増収増益。
	営業利益	5,326	6,050	+723	(+13.6%)	
	営業利益率	12.5%	13.8%	+1.3P	—	
金融IT	売上高	100,252	98,500	▲1,752	(▲1.7%)	大型開発案件のピークアウト影響は継続。モダナイゼーションによる新規顧客獲得等での復調を見込むが、一部運用業務終了等の影響により減収減益。
	営業利益	12,321	11,850	▲471	(▲3.8%)	
	営業利益率	12.3%	12.0%	▲0.3P	—	
産業IT	売上高	128,120	131,000	+2,879	(+2.2%)	製造業やサービスを中心とした既存顧客の深耕やERP関連のIT投資需要の取り込みにより増収増益。
	営業利益	19,330	21,200	+1,869	(+9.7%)	
	営業利益率	15.1%	16.2%	+1.1P	—	
広域IT ソリューション	売上高	177,425	181,500	+4,074	(+2.3%)	産業系販売案件の反動があるものの、引き続き堅調な医療系やネットワーク関連のIT投資需要を取り込み増収増益。
	営業利益	21,576	22,950	+1,373	(+6.4%)	
	営業利益率	12.2%	12.6%	+0.4P	—	

(説明省略)



- 1 2026年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績見通し
- 3 TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について
- 4 参考資料

- 続きまして、本日適時開示しております「TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について」ご説明します。

「グループビジョン2032」の実現に向けて、経営資本を集結し、成長加速を強力に推進

- 2008年4月のITホールディングス株式会社の設立による経営統合及び2016年7月の事業持株会社体制への移行を通じて、TIS及びインテックの両社はグループの中核会社としてシナジー効果の創出による顧客への提供価値拡大と企業価値向上に取り組んでまいりました。
- 一方、当社グループを取り巻く経営環境の変化等に鑑みると、長期経営方針「グループビジョン2032」の早期かつ確実な実現は極めて重要であり、そのためには、TISとインテックを合併させ、これまで以上に強固な経営・事業基盤を構築することが不可欠であると判断いたしました。
- 本合併により、お客様や社会との価値交換性を高めるとともに、テクノロジーや先鋭人材への戦略的投資を軸とした経営資本の最適配分や中核拠点の更なる提供価値向上を強力に推進し、更なる企業価値の向上を目指してまいります。

新会社のありたい姿

戦略顧客から更に頼られる ベストパートナーに

サービスのワンストップ化及び垂直統合を強力に推進することで、金融業界や産業分野の戦略顧客に対し、これまで以上にフルバリューチェーンでシームレスなサービスを提供し、パートナーシップの更なる深化を図る。

持続可能な未来と人々の幸せを より広範囲に実現

地方や国、企業の特性に応じて、日本の大都市や大企業の先進事例・ベストプラクティスを起点としたデジタルソリューションを、日本全国の大都市から地方、さらにはグローバルに向けて、より効果的・効率的かつスピーディーに展開。

社会の変革に より一層不可欠な存在へ

当社グループが事業を通じて解決を目指す4つの社会課題(金融包摂、都市への集中・地方の衰退、低・脱炭素化、健康問題)に対する人材・研究・M&A等の経営資本を一体化し、自社サービスの提供やお客様・パートナーとの共創を強化することで、提供価値を最大化。

© 2025 TIS Inc.

16

- 16ページをご覧ください。
- 冒頭でご説明しましたとおり、この度、TISとインテックを合併させ、一体となって新たな一步を踏み出す基本方針を決定いたしました。
- ここでは、合併の背景や目的について補足させていただきます。
- これまで、両社はグループの中核会社として、シナジー効果の創出による顧客への提供価値拡大と企業価値向上に取り組んでまいりましたが、一方で、私たちを取り巻く経営環境等の変化を踏まえると、これからさらに一歩先へ進むためには、これまで以上に強固な経営・事業基盤を構築することが不可欠です。
- このような認識のもと、「グループビジョン2032」を、より確実に、より早く実現するためには、TIS・インテックを合併させるべきと判断しました。
- この合併により、お客様や社会との価値交換性を高めるとともに、テクノロジー分野や先鋭人材への戦略的な投資を中心とした経営資源の最適配置を強力に推進し、更なる企業価値の向上を目指してまいります。
- なお、合併日は2026年7月1日を予定しております。
- 詳細については今後検討していく予定であり、現時点では適時開示している情報以上のご説明は差し控えさせていただきます。今後の発表をお待ちいただきたく、ご了承ください。
- 以上で、説明を終了いたします。

(参考)「グループビジョン2032」について

2024/5/8公表「TISインテックグループ中期経営計画(2024-2026)説明資料」より再掲



- 2024年5月に、内外環境の大きな変化を踏まえて長期目線での経営方向性をアップデートし、新グループビジョンとして設定。

外部環境

テクノロジーの発展、SDGsの高まりを起点とした
競争環境の不確実性の高まり

- ✓ 今後10年でビジネスモデルや産業構造、社会の在り方を変えうるポテンシャルを持つテクノロジーが、次々と実用段階に入る
- ✓ 社会課題解決が企業の至上命題化される中、これらテクノロジーを用いた多様なサービスが求められる
- ✓ 関連して異業種含めた様々なプレイヤーと共創・競合する機会が増加

内部環境

中長期経営目標に対する進捗は良好
外部環境変化を踏まえた新たな目標設定の必要性

- ✓ 中期経営計画(2021-2023)目標は概ね過達
- ✓ グループビジョンで目標とした戦略ドメイン比率も予定通り進捗
- ✓ 様々な活動が萌芽、これらを土台に外部環境変化を踏まえた自社のポジショニングの再考と新たな目標設定が必要

現状を踏まえ
長期目線での経営方針アップデートの必要性

Group
VISION
2032

社会に、多彩に、グローバルに

実現のための 事業指針

未来への洞察力と課題解決力を備え、様々なプレイヤーの能力を統合し、
共創を主導するポジションを確保、社会の変革に不可欠な存在へ

- ✓ トップ企業との共創や市場を席捲するサービスの提供を通じて市場との対話を深め、顧客の真の課題に対する洞察力を獲得
- ✓ これまで培ってきた統合力をさらに異業種連携など未来に合わせたものに拡張し課題解決の手段を拡充、世界を舞台に社会イノベーションを起こし続ける企業グループになる

© 2025 TIS Inc.

17

(説明省略)

合併の概要

- TISとインテックが合併し、グループを牽引する中核会社の規模を拡大。「TISI株式会社」に商号変更。
- コーポレートガバナンスのさらなる強化のため、監査等委員会設置会社への移行も決定。
- 合併の詳細検討をはじめとして必要となる準備を開始。現時点で未定の内容については決定次第速やかに公表予定。

(注)商号変更及び監査等委員会設置会社への移行は、そのために必要となる定款変更議案が2026年6月下旬開催予定の定時株主総会で承認されることが条件となります。



2026年7月1日(予定)



TISI株式会社

代表取締役社長 岡本 安史

売上高
3,839億円

営業利益
462億円

従業員数
9,497人

※両社(単体ベース)の2025年3月期実績の単純合算

本社機能:東京・富山・名古屋・大阪に設置予定

新社名には、合併する両社の歴史を尊重した上で、コアコンピタンスであるシステムインテグレーション及びサービスインテグレーションを磨くとともに、テクノロジー&イノベーションを追求することにより、社会の変革により一層不可欠な存在となることを目指すという想いを込めています。

(説明省略)

- 1 2026年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績見通し
- 3 TIS及びインテックの合併に関する基本方針の決定について
- 4 参考資料



(説明省略)

2026年3月期第1四半期 主要セグメント別売上高(事業別) ※外部顧客向け

(百万円)		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
オフアリングサービス		30,951	32,740	+1,789	(+5.8%)
	ソフトウェア開発	11,742	13,368	+1,625	(+13.8%)
	運用・クラウドサービス	10,483	10,779	+295	(+2.8%)
	製品・ソフトウェア販売	8,724	8,593	▲130	(▲1.5%)
BPM		9,522	10,322	+799	(+8.4%)
	ソフトウェア開発	2,954	3,376	+422	(+14.3%)
	運用・クラウドサービス	6,270	6,551	+280	(+4.5%)
	製品・ソフトウェア販売	297	394	+97	(+32.7%)
金融IT		24,635	23,297	▲1,337	(▲5.4%)
	ソフトウェア開発	12,420	12,913	+493	(+4.0%)
	運用・クラウドサービス	10,812	9,483	▲1,329	(▲12.3%)
	製品・ソフトウェア販売	1,402	901	▲501	(▲35.7%)
産業IT		29,741	32,217	+2,475	(+8.3%)
	ソフトウェア開発	19,824	22,319	+2,494	(+12.6%)
	運用・クラウドサービス	6,319	6,197	▲121	(▲1.9%)
	製品・ソフトウェア販売	3,597	3,700	+102	(+2.9%)
広域ITソリューション		38,639	41,211	+2,572	(+6.7%)
	ソフトウェア開発	19,906	20,986	+1,080	(+5.4%)
	運用・クラウドサービス	14,418	15,355	+936	(+6.5%)
	製品・ソフトウェア販売	4,314	4,869	+555	(+12.9%)
その他	その他	564	525	▲38	(▲6.9%)
合計		134,055	140,316	+6,261	(+4.7%)
	ソフトウェア開発	66,848	72,963	+6,115	(+9.1%)
	運用・クラウドサービス	48,305	48,367	+61	(+0.1%)
	製品・ソフトウェア販売	18,336	18,459	+122	(+0.7%)
	その他	564	525	▲38	(▲6.9%)

© 2025 TIS Inc.

(説明省略)

2026年3月期上期 業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想) ※変更なし

(百万円)		2025年3月期 上期	2026年3月期 上期	前年同期比	
売上高		275,558	285,000	+9,441	(+3.4%)
営業利益		30,509	33,000	+2,490	(+8.2%)
営業利益率		11.1%	11.6%	+0.5P	—
親会社株主に帰属する四半期純利益		20,840	22,000	+1,159	(+5.6%)
四半期純利益率		7.6%	7.7%	+0.1P	—
主要セグメント別					
オフライン サービス	売上高	70,405	74,000	+3,594	(+5.1%)
	営業利益	4,468	4,650	+181	(+4.1%)
	営業利益率	6.3%	6.3%	+0.0P	—
BPM	売上高	20,848	21,500	+651	(+3.1%)
	営業利益	2,317	2,800	+482	(+20.8%)
	営業利益率	11.1%	13.0%	+1.9P	—
金融IT	売上高	50,041	48,000	▲2,041	(▲4.1%)
	営業利益	6,090	5,500	▲590	(▲9.7%)
	営業利益率	12.2%	11.5%	▲0.7P	—
産業IT	売上高	61,295	64,000	+2,704	(+4.4%)
	営業利益	9,022	9,900	+877	(+9.7%)
	営業利益率	14.7%	15.5%	+0.8P	—
広域IT ソリューション	売上高	83,948	89,000	+5,051	(+6.0%)
	営業利益	8,300	10,000	+1,699	(+20.5%)
	営業利益率	9.9%	11.2%	+1.3P	—

© 2025 TIS Inc.

(説明省略)

2026年3月期下期 業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想) ※変更なし

(百万円)		2025年3月期 下期	2026年3月期 下期	前年同期比	
売上高		296,128	297,000	+871	(+0.3%)
営業利益		38,538	40,000	+1,461	(+3.8%)
営業利益率		13.0%	13.5%	+0.5P	—
親会社株主に帰属する四半期純利益		29,171	27,000	▲2,171	(▲7.4%)
四半期純利益率		9.9%	9.1%	▲0.8P	—
主要セグメント別					
オフライン サービス	売上高	75,109	76,000	+890	(+1.2%)
	営業利益	5,468	5,950	+481	(+8.8%)
	営業利益率	7.3%	7.8%	+0.5P	—
BPM	売上高	21,798	22,500	+701	(+3.2%)
	営業利益	3,009	3,250	+240	(+8.0%)
	営業利益率	13.8%	14.4%	+0.6P	—
金融IT	売上高	50,210	50,500	+289	(+0.6%)
	営業利益	6,231	6,350	+118	(+1.9%)
	営業利益率	12.4%	12.6%	+0.2P	—
産業IT	売上高	66,824	67,000	+175	(+0.3%)
	営業利益	10,308	11,300	+991	(+9.6%)
	営業利益率	15.4%	16.9%	+1.5P	—
広域IT ソリューション	売上高	93,476	92,500	▲976	(▲1.0%)
	営業利益	13,275	12,950	▲325	(▲2.4%)
	営業利益率	14.2%	14.0%	▲0.2P	—

© 2025 TIS Inc.

下期計画＝通期計画－上期計画

(説明省略)

2026年3月期第1四半期 プレスリリース/お知らせ①

発表日付	タイトル
2025年4月1日	TISの人事異動のお知らせ
2025年4月1日	インテックとfinect、サービス開発・運営と金融関連業務知見の強みを活かしたサービス提供に向けて、資本業務提携契約を締結
2025年4月2日	ステーブルコインの事業化に向けた共同検討に係る基本合意書の締結について
2025年4月7日	クオリカ、オールインワン型ネットワーク情報端末の新モデル「WebLightVXP15」を発売
2025年4月7日	TIS、MicrosoftのIDベースのゼロトラストネットワークを実現する「ゼロトラストネットワーク導入サービス for Microsoft Entra」を提供開始
2025年4月10日	TIS、「大阪ヘルスケアパビリオン公式アプリ」の開発および「ヘルスケアプラットフォーム」の提供を通じて、大阪・関西万博の展示体験をITでサポート
2025年4月16日	「2025年ミャンマー地震」被害への支援について
2025年4月16日	AJS、「人事評価クラウドP-TH+（ピースプラス）」に2つの新機能を追加
2025年4月17日	インテックの「EDIプラットフォームサービス」をカゴメが採用
2025年4月18日	インテック、富山県立中央病院で病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」と周辺機器を連携し、デジタル病理運用開始を支援
2025年4月21日	TIS、日本ICS、広島銀行が請求書業務から決済までを効率化する「DX Connect Gate」を提供開始
2025年4月21日	インテックの「電話認証サービス」に、リアルタイムフィッシングを防止する新機能を追加
2025年4月24日	インテック、米国PROTO社のホログラフィック通信プラットフォームの販売および国内初の導入・活用支援を開始
2025年4月24日	段ボール業界向けにDX/GXソリューション事業を展開する新会社設立について
2025年4月25日	TIS、デジタル地域通貨プラットフォームを提供するフィノバレーの連結子会社化に向けた基本合意書を締結
2025年4月25日	クオリカとスタディスト、販売パートナー契約を締結
2025年4月25日	企業における生成AIの利用状況と課題解決に関するレポートを公開
2025年5月7日	TISと大阪大学 量子情報・量子生命研究センター、新量子アルゴリズム「FQAOA」を開発
2025年5月8日	TISの人事異動のお知らせ
2025年5月20日	TIS、「親子のキャッシュレス調査」を実施！子どもが使って安全な決済手段は「キャッシュレス派」が57.9%と「現金派」を上回る
2025年5月21日	TIS、ウィーメックスのクリニック用レセコン一体型電子カルテ開発を支援
2025年5月21日	TIS、あずさ監査法人が提供するリース契約読込ツール「KLAS」への生成AIを活用した機能拡充を支援

(説明省略)

2026年3月期第1四半期 プレスリリース/お知らせ②

発表日付	タイトル
2025年5月22日	クオリカ、SOYOKAZEの「訪問理美容サービス」をサイボウズの業務改善プラットフォーム「kintone」でシステム化
2025年5月22日	TISとKort Valuta、決済システムの内製化に向けた共同開発を開始
2025年5月23日	TIS、「Xenlon〜神龍 モダンイゼーションサービス」でJALのマイレージ関連システムのオープン化を支援
2025年5月28日	TIS、無人自動運転車両とAIの活用によりブランドの世界観へ没入できる新しい消費体験を提供
2025年5月29日	TISのクラウド型経費精算システム「Spendia」、ChillStackの不正経費自動検知クラウド「Stena Expense」の提携販売を開始
2025年5月30日	TIS、丸紅の商用EV向け充電マネジメントサービスを支援
2025年5月30日	インテック、IOWN Global Forumに参画し、IOWN®構想の実現・普及を推進
2025年6月2日	TISとタッチストーン・キャピタル・マネージメント、ブロックチェーン技術を活用したセキュリティ・トークンの譲渡における第三者対抗要件具備に関する実証実験を開始
2025年6月2日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ
2025年6月3日	TISとQuality Cloudが協業し、プライベートクラウド基盤の構築と運用を支援する国産のトータルサポートサービス「Cloud Green System導入・運用支援サービス」を提供開始
2025年6月4日	TIS、三菱UFJ銀行の富裕層向けオウンドメディアの顧客体験デザインを支援
2025年6月9日	ネクスウェイ、チェーンストア向けコミュニケーションツール「店舗matic」にAI翻訳オプションを追加
2025年6月10日	ネクスウェイ、「FNX e-受信FAXサービス」に「自動返信機能」を追加
2025年6月13日	TIS、「UiPath Japan Partner Awards 2024」にてPartner of the Yearを受賞
2025年6月17日	アグレックス、大企業向けの営業活動を支援する「エンタープライズセールス向けアカウントプラン作成支援ソリューション」を提供開始
2025年6月23日	日本ICS、「税理士360構想」の第五弾として、「請求書管理オプション for DX Connect Gate」を提供開始
2025年6月24日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2025年6月24日	TIS、AWS Marketplace上のISV製品やサービスをカスタマイズされた価格や条件で販売する「CPPOプログラム」による取引を本格始動
2025年6月24日	TIS、「マネージドサポートサービス」に「Amazon Q Business」を活用した生成AIサポートチャットを追加
2025年6月26日	AWSの「2025 Japan AWS Ambassadors」「2025 Japan AWS Top Engineers」「2025 Japan All AWS Certifications Engineers」「2025 Japan AWS Jr. Champions」に総勢42名のTIS社員が選出
2025年6月26日	TIS、デジタルマーケティングサービス群「TIS MARKETING CANVAS」のリニューアルを実施し、PoCを開始
2025年6月27日	インテック、最新デジタル技術×IP×地域をつなぐイベントDXで新たなエンターテインメントのカタチを創出
2025年6月30日	TIS、SNP Japanと次世代ERPへの移行支援で戦略的パートナーシップを締結

(説明省略)

ITで、社会の願い叶えよう。



(説明省略)